

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的に学習の定着が少しずつ図られている。特に理科の学習は全般的に良好である。学習の定着については、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。 また、国語では、課題がある領域と向上が見られる領域が混在している。各学年で苦手な領域に重点的に取り組み、R6年度の全国学力・学習状況調査等で検証していく。
思考・判断・表現	本年度の学校研究では、「対話的な学び」を重点に取り組み、根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に表現することが少しずつ身に付いている。教科等横断的な視点として、教科間のつながりを意識したり、学び方を活用したりすることを継続していく。また、各教科の授業で、具体的な振り返りを次の学びに生かす活動を引き続き重視していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目について、学習のねらいや過程に沿った振り返りを意図的継続的に行うことでさらに定着を図る。また「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目において肯定的な回答の割合を維持するだけでなく、家庭学習の内容が充実するよう、校内研修と関連付けたり資料を活用したりして主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度のさいたま市学習状況調査の各学年の結果では、各教科とも、市の平均と同程度か、上回る結果であった。ただ、苦手とする分野も見られるので、今後は昨年度の学校平均より正答率を高くする。	⇒ 本校の学校研究課題である「対話を重視した学習」を追求し、学び合いの中から自ら課題をつかみ、理解を深めていく授業展開を工夫していく。また、ICTを活用しつつ、基礎・基本の習熟の時間を確保する。
思考・判断・表現	上記と同様、市の平均と同程度か、上回る結果であった。特に高学年の結果がよかった。これまでの取り組みで効果があったと考えられる「振り返りの活動」を今後とも取り入れていくことで全国平均を上回る。	⇒ 各学級において「振り返り活動」を実施する。また、自分の思いや考えを積極的に表現したくなるような題材や、ICTを活用した話し合い活動の導入を工夫する。
主体的に学習に取り組む態度	全国・学力学習状況調査の質問項目「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答が全国平均を超えるようにする。	⇒ 家庭学習の在り方や時間、内容等について、校内で議論・共通理解し、家庭にも周知する。また、持ち物の準備等について、児童が自分で行うことができるように、家庭と連携して指導していく。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	さいたま市学習状況調査の本校とさいたま市の平均回答率との差を令和4年度と比較すると国語2.3ポイント、算数は1.7ポイント向上している。 また、長期休業中を中心にドリルパークの活用を図ったり、学習の中では、全学年において様々な教科でICTを活用した学習を展開できた。	B
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果国語・算数の「思考・判断・表現」の令和4年度との比較で、国語については0.7ポイント向上し、算数は2.6ポイント減少した。ただし、市の平均正答率との差では、昨年度は0.4ポイント下回っていたが、今年度は0ポイントとなり市の平均を基準と考えると向上したと捉えることができる。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査の質問項目「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」で、肯定的な回答の割合は、昨年度の数値を0.2ポイント上回った。また無回答率を令和4年度と比較すると、国語で2.9ポイント、算数で1.4ポイント減少している。これは、問題に主体的に取り組む児童が増えていると考えることができる。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校と全国学力・学習状況調査の平均正答率の差と比較し、国語+6.4pt、数学+3ptであった。国語では、今年は情報の扱い方に関する問題が入ってきたが、理解している児童が多くみられた。算数では、データの活用正答率の平均値が昨年より+1.6ptとなった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか」の質問項目の肯定的な回答の割合は92.2%と高かった。引き続き、学校で統一した「振り返りの書き方」を活用して授業改善に努める。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目の肯定的な回答の割合は、全国平均を10.7%上回り、目標に達することができた。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善や、児童への家庭学習の喚起、家庭への呼びかけに努める。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「思考・判断・表現」において、R4年度調査より国語+10.1pt、算数+2ptであった。言葉の特徴や使い方に関する事項において課題がみられた。 算数では、図形の構成の理解に課題があった。「学習内容がよく分かるか」の質問項目については、国語・算数とも肯定的な回答の割合が90%を超え高い傾向がみられた。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」では、市の平均正答率との差がR4年度調査より国語+2.3pt、算数+2.7ptであった。国語では、文の中の主語と述語の関係を理解することに課題がある。算数では、示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することに課題がある。「授業で学んだことをほかの学習で生かしているか」についての質問では92.5%と高い傾向がみられた。
小5	国語では、相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと、算数では、分数の減法や公約数等に課題がある。 昨年度課題がみられたグラフ読み取りの問題では、複合グラフの特徴を読み取る問題の正答率で+5ポイントの上昇がみられた。6年生でも引き続き、領域のつながりを意識した学習をしていく。	小6	どの教科においても、概ね学習内容を理解できている。無回答率が非常に低く、主体的に学習に取り組もうとする姿が身に付いていると考えられる。国語では、文の中の主語と述語の関係を理解する問題について課題がみられた。 「授業で学んだことを、ほかの学習でいかしているか」の質問項目については、肯定的な回答の割合が約91.7%と高い傾向が見られた。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	R5年度さいたま市学習状況調査自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より正答率を向上させる。	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査では「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」を加えた質問項目で、肯定的な回答の割合を昨年度よりも向上させる。	⇒ 毎時間の学習において、「振り返り活動」を実施し、学習の成果や次時への課題を確認して、学習に対して主体的に取り組むことができるようにする。